

3. 飯豊連峰・朝日連峰（磐梯朝日国立公園）における 協働の取り組みの事例

「飯豊連峰保全連絡会」及び「朝日連峰保全協議会」について

飯豊、朝日の両山域でも登山利用に起因する登山道周辺の荒廃が確認され、関係者は憂慮している状態であったが、一方で歩道整備を望むものの、画一的な土木工事的な整備は望んでいなかった。一般的な国立公園の登山道管理の主流は、整備者が地権者から土地を借り、管理者を決めて管理責任を一元的に負わせる形態となっているが、その形態では安全対策を重視した施設整備となりやすく、そのためこれらの山域に限っては、関係者が連携し、きめ細やかな維持管理を行うことで従来からの登山道を維持していこうとする意思統一が図られた。以上により、それらの連絡体制や作業体制を組織するため「連絡会」や「協議会」を設立したものである。（飯豊：平成20年2月、朝日：平成21年5月）

連絡会等の活動内容は、夏山登山シーズン前、会員である山岳会や自然保護団体、行政関係者ら地域関係者で参集し、当年度の作業計画を持ち寄って発表してもらおうと同時に、合同で取り組む作業の計画について、場所や内容を話し合い決定する。

飯豊連峰保全連絡会 設立趣旨書

＜設立趣旨＞

この会の設立趣旨は、飯豊連峰を愛する人たち、飯豊連峰に関わる人たち、飯豊連峰に登る人たちの協働により、人為的な影響で荒廃した自然を復元させ、原始性の高い飯豊連峰の自然が永続的に維持されるように、その保全活動を推進することである。

このため、飯豊連峰に関する様々な主体の保全活動が無秩序とならないよう、広範囲な関係者が様々な立場で連携・分担するための情報交換、意思疎通を行うこととする。

朝日連峰保全協議会

発起人 朝日山岳会、大江山岳会、小国山岳会、鶴岡山岳会、西川山岳会、
山形県山岳連盟

関係行政機関

森林管理署(庄内・山形・置賜・下越(村上支署)・朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター)
環境省東北地方環境事務所(国立公園・保全整備課 ・ 羽黒自然保護官事務所)
山形県 (みどり自然課、置賜総合支庁、庄内総合支庁、村山総合支庁各環境課)
新潟県 (環境企画課)
鶴岡市 (朝日庁舎産業課)、村上市(商工観光課)、西川町(産業振興課)、
大江町 (産業振興課)、朝日町(産業振興課)、飯豊町(産業振興課)、小国町(産業振興課)

一般

山形県猟友会
山形県溪流釣り協議会、山形県内水面漁業協同組合連合会
小国山岳会、鶴岡山岳会、西川山岳会、大江山岳会、朝日山岳会、白鷹山岳会、長井山岳会、岳人長井、奥あさひこぶし会、寒河江山岳会
小国の自然を守る会、朝日町の自然を守る会、朝日連峰のブナ等の原生林を守る会、出羽三山の自然を守る会
東北山岳ガイド協会事務局、東北マウンテンガイド・ネットワーク

平成21年10月2日発行 【第2号】

朝日連峰保全協議会 ニュースレター

(このニュースレターは朝日連峰保全協議会会員各位と合同保全作業に参加頂いた皆様にお送りしています。)

発行者:朝日連峰保全協議会

■朝日連峰保全協議会 合同保全作業の報告について

平成21年9月26日(土)～27日(日)、朝日連峰の銀玉水上部で、平成21年度の合同保全作業が行われました。今年5月22日の朝日連峰保全協議会議の発足後、初の合同保全作業となるものです。今回の作業箇所は、銀玉水上部の急斜面部分で、雨水集中による侵食と踏圧等による登山道利用によって、現在も荒廃が進行している箇所が選ばれました。

作業の概要としては以下のとおりです。

9月26日、古寺鉱泉に集合し、古寺山経由で銀玉水上部まで緑化ネット、土嚢袋、スコップ等の資材の荷上げを行いました。大朝日小屋に到着後、緑化ネット固定に使用するペグを番線から加工する作業を行いました。

9月27日の作業概要は以下のとおりです。

- ・ 歩行路を固定する為、現地の転石を用いてステップとなると石の設置と、登山道の際に石を設置する作業を行いました。
- ・ ガリー侵食部に土砂を堆積させるため、麻製土嚢袋と現地の転石を用いて土留め工を設置する作業を行いました。
- ・ 裸地部に緑化ネット8巻(1巻 1.2m×30m)を敷設する作業を行いました。ネット敷設後は風で飛ばされないように番線を加工したピンでネットを固定し、微地形効果と重しを兼ねて、転石を置きました。



出発前の挨拶 渋谷啓代表(西川山岳会会長)



作業前に参加者で施工方法を検討します



現地の転石を用いて歩行路にステップを設置



歩行路誘導の柵を設置



緑化ネットを敷設



作業終了後、全員で施工箇所を確認しました

作業時には、経験者がリーダーとなって場所ごとにグループに分かれ、現地の転石を運ぶ、石組みを設置する、緑化ネットを被せる、番線や転石でネットを固定する等、各自が役割分担をして作業を行い、予定していた作業全てを完了することができました。

今回の作業では、朝日山岳会と大江山岳会に計画の受皿になって頂き、作業計画の決定、当日の指揮監督等、子細に渡ってご尽力頂きました。

秋田や福島等の遠方からの参加者もあり、また当日に飛び入りで作業に参加して下さった方もおりました。山形県山岳連盟には事前に緑化ネット4巻の荷上げにご協力いただきました。

今回の作業に関わって頂いた朝日連峰を愛する多くの登山者や山岳関係者、また様々な形で関わって下さった地域関係者皆様の心意気に、厚くお礼申し上げます。

(当日は、19団体、39人の参加がありました)

【発行者】

朝日連峰保全協議会

(事務局) 羽黒自然保護官事務所(佐藤、佐々木)

〒997-0141

山形県鶴岡市羽黒町荒川字谷地堰 39-4

TEL : 0235-62-4777

FAX : 0235-62-4537

E-mail : RO-HAGURO@env.go.jp

平成 20 年 10 月 6 日 第 2 号

飯豊連峰保全連絡会 ニュースレター

(このニュースレターは飯豊連峰保全連絡会会員各位と合同保全作業に参加頂いた皆様にお送りしています)

■合同保全作業の報告について

平成 20 年 8 月 29 日 (金) から 9 月 1 日 (月) にかけて、飯豊連峰の天狗ノ庭で、平成 20 年度の合同保全作業が行われました。

今回の作業箇所は、天狗ノ庭の荒廃を危惧すること等を理由に、今年 6 月 26 日の飯豊連峰保全連絡会議第 1 回会合で決定されたものです。

作業行程の概要としては以下のとおりです。

8 月 29 日、天狗平ロッジに集合し、梶川尾根～梅花皮小屋まで番線、剣スコップ等資材の荷上げを行いました。梅花皮小屋に到着後、緑化ネットの固定に使用するペグを番線から加工しました。

8 月 30 日、前日に荷上げた資材に加え、事前に荷上げていた緑化ネット 25 巻、土のう袋 150 袋を作業箇所である天狗ノ庭に運搬しました(うちネット 5 巻は事前に天狗ノ庭まで運搬していました)。また資材運搬とあわせて、梅花皮小屋から天狗ノ庭までの移動時に、許可を得たイネ科等の種子採取を行いました。なお、移動区間では未熟な種子が多かったため、天狗ノ庭周辺でも午前中にヒメスゲ等を中心に結実種子を採取しました。

30 日午後からの作業は以下のとおりです。

- ・平成 19 年度実証試験で施工した緑化ネットの一部が剥がれていたため、張り直しました。
- ・植生復元する箇所は、転石を取り除き、採取した種子を蒔き、緑化ネットを被せ、番線を打ち込んで地面に縫いつけ、さらに重しと微地形効果を期待して転石を置きました。ポイントとしては土砂流出を防止するため上流側より順に、また弛みを保たせて敷きました。
- ・流水コントロールとして、雨裂による溝になっている箇所に、土砂を堆積させて安定させるための、石組みや土のう袋による土留めを設置しました。ポイントとしては土留め中央部から水が流出するように中央部が低くなるようにしました。



作業前に種子の採取



種まきと緑化ネット敷き



流水コントロールとして、土のう袋を設置



作業終了後に記念撮影

今回の資材量は前回平成 19 年度のほぼ倍の数量がありましたので、翌日 31 日までの作業を予定していたのですが、昨年度の経験者も多く、力仕事ができる人は土のう袋を運ぶ、あるいは種を蒔く、上から緑化ネットを被せる、番線で固定する等、各自の役割分担が功を奏し、見る見るうちに作業が進み、作業初日のうちに計画量全てを完了する事ができました。

作業後は梅花皮小屋に帰還し、その夜の打ち上げではクマ汁なども振る舞われ、大いに盛り上がりました。

今回の作業を行うにあたり、多くの方から事前荷上げに協力して頂きました。中には毎週のように、また一度に 1 巻以上も運び上げて頂いた猛者もいました。

置賜森林管理署からは「飯豊山周辺森林生態系保護地域の保全管理に関する連絡調整会議」において共同で取り組む事業と位置付けられ、緑化ネット、土のう袋の資材提供を頂きました。

NPO 法人飯豊朝日愛する会からは計画の世話役となって頂き、資材、飲食料の提供、作業計画の決定など、子細に渡ってご尽力頂きました。

今回の作業に関わって頂いた飯豊連峰を愛する多くの登山者、地域関係者各位の思いと力の結集に敬意を表したいと思います。

(当日の参加状況は、13 団体、59 人の参加がありました。)

※飯豊連峰保全連絡会の登録状況は、35 の団体個人、合計 153 人 (9 月 4 日現在) です。

【使用資材】

- ・緑化ネット 25 巻 (122cm×30m : 15~18kg)
- ・麻製土のう袋 150 袋 (100×60cm)
- ・番線#10 約 450m (計約 40kg)
- ・剣スコップ 4 本
- ・ツルハシ 1 本
- ・ハンマー 2 丁
- ・ワイヤーカッター 2 丁 など

【発行者】

飯豊連峰保全連絡会事務局
 羽黒自然保護官事務所(佐藤・佐々木)
 〒997-0141
 山形県鶴岡市羽黒町荒川字谷地堰 39-4
 TEL:0235-62-4777
 FAX:0235-62-4537
 E-mail:RO-HAGURO@env.go.jp

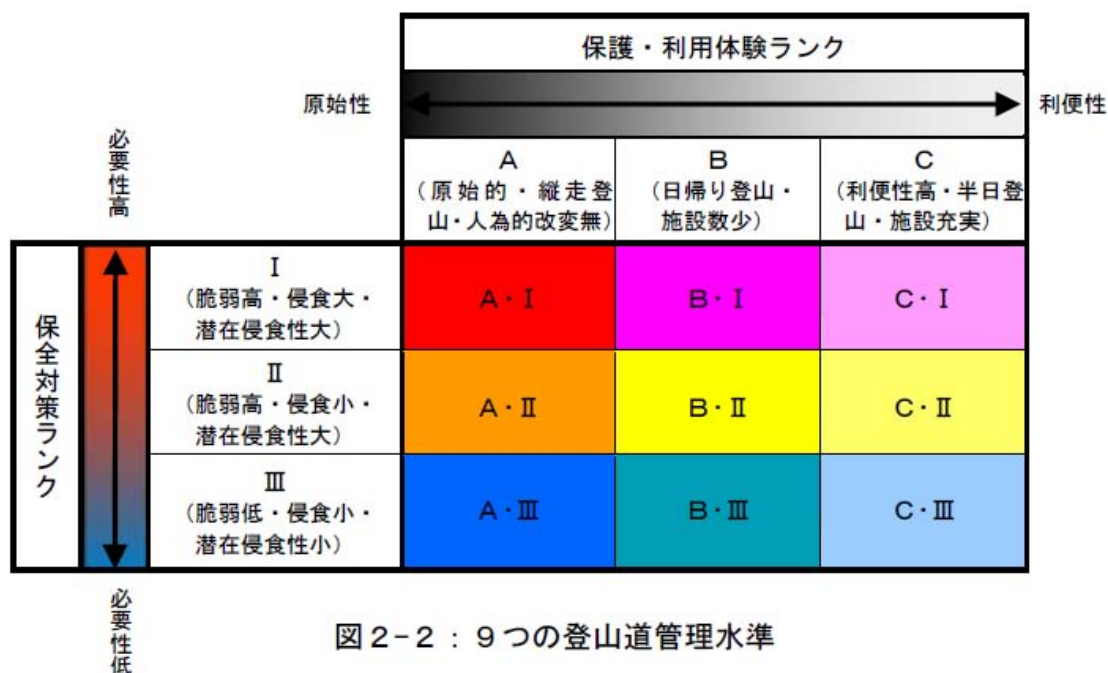
4. 大雪山国立公園における「登山道の管理水準」と

「登山者心得」策定の事例

大雪山国立公園においては、環境省が、検討会を設け、ROSの考え方を導入して具体的な登山道の管理水準の設定と各登山道区間への水準の適用に関する検討を平成14～16年度に行っている。

また、登山利用に伴う植生・地形の破壊を抑え、安全に登山を行うためには、登山道の適切な管理のほかに、登山者自身が自己責任の下で登山や自然環境に配慮した行動をしていくことが求められることから、大雪山における登山道の登山の心得についても有識者のアドバイス得ながら検討した。

「登山道管理水準」とは、大雪山国立公園において利用の中心施設である登山道の管理のあり方を定めるもの。一元的な管理でなく、大雪山特有の自然条件、利用状況等を勘案し、登山道の区間ごとの地域特性に応じた複数の管理のやり方（管理水準）を定めた。



<ROS について> ROS (Recreation Opportunity Spectrum) とは、利用者のレクリエーション体験を考慮した野外レクリエーションに関する計画概念である。

「ROS とは、嗜好性の異なる多様な利用者のレクリエーション機会を確保し、利用体験の質を保証するために、レクリエーション地域を区分して、区域ごとに整備、管理を行うための計画的枠組みである。」(八巻ら)